取扱説明書

PUROMONTE The most versatile upland gear 登山用テント

VL-27M

テントは野営(屋外での宿泊)で快適に睡眠をとれることを目的として設計されています。設計の前提になっているのは以下のとおりです。

使用人数 VL-27Mは2人用として設計されています。

天　候
- 強風　風速が15m/秒を超えると破損することがあります。
- 耐用年数　合成樹脂や合成繊維は保管状況により劣化の進行具合に差が出ます。シーズンオフには各部点検をして、問題があれば販売店もしくはHCS社にご相談ください。

テント設営 天場で設営することを基本に設計しています。
- 地面：テントを設営する地面としては、水平で平坦な所が適してます。凹凸のある所は寝心地が悪いだけでなく、設計したテントが設計通りの形にならないことがあります。
- 地形：雨水の通り道になる所(谷状の地形)、雨水がたまる所(くぼみ地)に設営すると、テント内に浸水します。また、風の弱い所を選ぶことも大切です。日差しが強すぎる所では、日中にテント内が高温になります。

テント内での火器使用

小型の火器を使用しても通気量が不足することはありませんが、たいへん危険です。通気の確保、火災時の避難経路などをあらかじめ確認することが必要です。また、火器の取り扱い説明書をよく読み、注意事項をしっかり認識し厳守します。

◆テント各部分の説明

テント本体(壁と土台)・・・インナーテントとも呼びます。四隅を地面に固定して使用します。また、柱(ポール)を固定する仕組みを持っています。

柱・・・・・・・この製品には付属していません。

ペグ・・・・・・この製品には付属していません。必要な方はご自身でご用意ください。

張り綱・・・・・主に、風の強いときにテントを安定させるために使用します。一方の端をフライシートに結びつけ、もう一方の端をペグで地面に固定します。

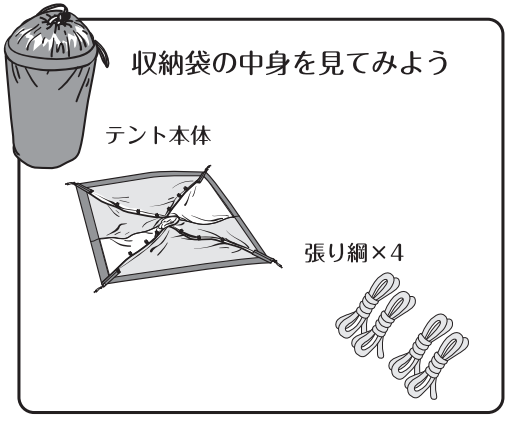
◆テント使用中に起きた過去の事故例

✻崖の直下に設営後、長雨で崖崩れが発生。また、落石や野生動物が落下してくる危険もあります。

✻河原で設営後、上流部の集中豪雨で急激に水増し、野営中の人々がテントごと流されました。また、海岸や湖畔(特に人造湖)なども水位の変化により浸水した事例があります。

✻開けた高地に設営後、落雷が直撃しました。

✻高圧線の直下で設営中、組み立て中の柱(ポール)が高圧線に接触し感電。

✻温泉地のくぼみ地に設営後、夜間に無風になり、毒ガス中毒が発生しました。

✻テント内で火器を使用後、通気量不足により窒息。
また、火災の発生事例もあります。